

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894900055		
法人名	但南建設株式会社		
事業所名	グループホームたんなん		
所在地	朝来市山東町柿坪1-1		
自己評価作成日	平成26年3月3日	評価結果市町村受理日	2014年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

<a href="http://www.hyogo-kai.go.com/">http://www.hyogo-kai.go.com/</a>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成26年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流。医療との連携。 利用者さん家族さんとの良い関係が継続できるように情報提供をする。 職員の資質向上。良好なチームワークが利用者の生活の質の向上につながっている事を職員に意識してもらえるように取組んでいる。 普段の生活はとにかく外に出るを意識しています。
---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に一日一回は笑顔が見られるように支援している。関わりすぎは返ってストレスになると考え、一人一人に合った活動を楽しめるようにしている。入浴は一日おきに夕方から夜にかけて、寝る前に提供している。今年度は利用者全員参加で温泉に一泊旅行に行くなど外出支援にも努めている。また、医療面においては、居宅療養管理医療を取り入れて、普段の状態から健康管理を行い、最期まで看取りができる体制を整えている。地元在住の職員が子供会に働きかけて、職員の子供と共に訪問してもらうことをきっかけに地域交流を促している。今後は、利用者同士の関係を良くする手法を学ぶこと、サービスの質を高めるためにも、職員が仕事の喜びを見い出せる、楽しめる職場を目指したいと考えている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を提示し、職員がいつでも見れるようにしている。会議などで共有して、考える機会を設け、地域とのつながりや交流の大切さを話し合っている。	名刺の裏に記載して、事あるごとに認識している。地域との関わりとその人らしさに特に力を入れて支援している。第三者評価の自己評価を行う際に全職員が理念について、コメントを書くなどして、振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	認知症サポーター養成講座で地域から全面的にバックアップしてもらった事で今までのつながりの成果を感じることができた。普段から新聞取りや散歩、地区行事の参加などで地区の方と顔見知りの親しい関係になり、こども園、小学校、地区の子供会との交流を行なっている。	認知症サポーター養成講座に多くの地域の方の協力と参加が得られた。利用者と一緒に毎日の新聞取り、どんど焼きや地藏盆、クリーン作戦に参加することで顔見知りになっている。小学生が夏休みを利用して掃除、洗濯干し、話し相手、レクなどのボランティアに来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、初めて市と連携し、地域において「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症について理解してもらう機会となった。座談会でも職員が中に入り、交流すると共に、いい意見交換の機会となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで開催している。今年から会議に介護職員と利用者さん各1名が参加することで施設運営に関心を持ってもらえ、利用者さんの思いも参加者に感じてもらうことができた。メンバーから行政や地域の情報や意見をもらい、ケアや運営に活かしている。	地域包括支援センター、診療所医師、利用者、家族、職員等の参加があり、意見交換を行っている。地域包括支援センターから在宅高齢者の情報を得たり、医師から感染症の状況や対策の情報を得て、参考にしている。	会議のマナー化を防ぐために社会状況にそった議題を上げ、警察官、消防士等に参加を呼び掛けてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは日頃から情報交換や相談をし、良好な関係が築けるように努めており、認知症サポーター養成講座を主催の協力、「虐待」についての研修に協力してもらっている。また、職員が市介護保険運営協議会に参加している。	認知症サポーター養成講座に職員が寸劇で協力したり、虐待の研修に市職員に講師として来てもらったりしている。市から在宅高齢者の入居相談もある。市介護保険運営協議会に参加して福祉の改善策などについて話し合うなど、積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や研修などで身体拘束について学ぶ機会を持ち、実践できている。玄関の施錠は夜間以外にはせず、利用者の安全確保の為の施錠などについては職員、家族との考え方を一致させている。	地域包括の職員を講師として研修を実施。外出願望の利用者の夜間対策として、出入口の鍵を二重にすることを考えたが、普段の関わり方を変えることによって改善した。センサーマットを置いているが、行動の抑制はせず、見守っている。言葉の拘束については注意し合っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修などで「虐待」について学ぶ機会を設けている。本年度は市の包括支援センターより研修に来てもらう。ケアが上手いかわからない時は他の職員に対応を変わるなど、職員も利用者さんもストレスを溜めないように協力しながらケアしている。	地域包括の職員を講師として研修を行っている。グレーゾーンについて、職員間で話し合い、理解を図っている。管理者、ケアマネジャーが常に注意し、話をきくようにして、職員のストレス軽減を図っている。イベントで利用者と一緒に楽しみ、信頼関係を深める工夫をしている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関に成年後見人制度のパンフレットを置き情報発信に努めている。以前は成年後見人制度を利用していた利用者がいた為身近なものだったが、現在はおらず制度についての知識が薄くなってきている。日常生活自立支援事業については活用できていない。	研修は行っていない。以前、制度を利用していた人がいたので管理者とケアマネジャーは理解しており、相談があれば支援できる。利用を勧め、地域包括支援センターにつないだこともある。日常生活自立支援事業については管理者が理解している。	入職時の研修に取り入れるなどして、制度を理解する程度の研修を職員に実施していただきたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学してもらい、出来るだけ不安を解消できるように努め、意見や質問があった時には納得されるようにきちんと返答している。	事前に見学してもらっている。部屋が空いていれば体験入居も可能である。医療面については訪問看護を利用していること、看取りを行うこと、費用面についても重点的に説明している。変更事は文書で説明し、同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話にて、日頃からコミュニケーションに努め、利用者さんにも日常会話の中から意見・要望を聞き、会議などで話し合いケアに役立てている。	面会時に近況報告をしながら話しかけて聞いている。夜、事業所周辺が真っ暗になるので街灯をつけてほしいとの意見があり取り付けた。利用者、家族が話しやすい雰囲気作りを心がけている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見に耳を傾け、月1回のユニット会議でも、意見や提案を聞く機会を設け、その都度話し合っている。	ユニット会議の前に話し合ってもらいたいことを提案し、検討している。人手不足の負担解消に関することやケアに関する意見がよく出る。職員の意見をもとに、リビングに洗濯物干し場を取り付けたり、近くの川に魚釣りに行ったり、柿をもぎに行くことを実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の定着率が向上するように、法人全体で職場を支援する体制を整えようと検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は今年度就任。管理者が職員の技量に合った研修を受ける機会を提供している。また研修内容が参加しなかった人へ分かるように研修報告を回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会で風船バレーボール大会等の行事や各施設持ち回りの研修会等を通じて交流する機会を持ち、同業者との交流も回りサービスの向上につなげる事を継続している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	よき理解者と思ってもらえるようにゆっくり傾聴し、他者との間に入って、早く馴染んでもらえるように努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学などをしてもらい、雰囲気を感じてもらいながら、不安なことは、ゆっくり相談にのって、信頼関係作りをしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家での生活との違いや出来ない事などへの状況把握に努め、家族や主治医と相談しながら利用を決定する。また、利用出来なかった場合でも他の代替サービスへつなげられるように親身になって支援している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリの場と考え、できる事や得意な事を活かして生活して頂けるように働きかけている。利用者、職員と一緒に作業等を行い教えられる場面も日常生活の中で取り入れている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者や計画作成担当者が窓口になり、家族の思いを受け入れ、要望に応えられるように支援している。行事の時に積極的に、家族に参加してもらえるように呼びかけ、本人と家族の絆を大切にしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日の日に家族と、友人を交えて、食事を企画するなど馴染みの関係が途切れないように応援し、日頃からも開かれた施設を目指している。現状は思うほど、家族以外の面会は増えていない。	帰宅願望のある人には家のある村の中をドライブしたり、時々お墓参りに行ったりしている。甲子園へ野球観戦に行く人や歌が好きで、NHKのどじまんに挑戦した人もいる。家族の協力を得ながら、関係継続の支援に努めている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報を共有し、利用者さんの性格や行動、思いなどを把握し、声掛け等で孤立することなく、関わり合えるように支援している。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いに行くなど関係性を保ち、相談の要望があれば、すぐに応じられるように良好な関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者さんの声に耳を傾け、個別で居室でゆっくり話したり、買い物や入浴の時にゆっくり話の中から要望を聞き、会議等で検討している。	24時間生活変化シートにその時々の様子や場面、行動の原因と考えられること、利用者の発した言葉を詳細に記録して具体的な願いや思いを把握している。困難な場合は普段の関わりの中から読み取ったり、表情、態度で察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初の面接時の調査や日々の会話の中から生活歴・趣味・嗜好・暮らし方などの把握に努め、本人が落ちついて過ごしやすく、本人らしい空間作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りや会議などにより、利用者さんの日々の過ごし方、体調、不安感等の観察・把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族との面談、利用者のなにげない言動、日々のユニットごとの話し合いや定期的なユニット会議で課題、援助内容を話し合い、介護計画の作成やモニタリングを行っている。	月1回行われるユニット会議の記録や申し送り時の日々の記録をもとに、2ヶ月に1回モニタリングを実施している。計画作成時は利用者、家族の意向を取り入れるために、24時間生活変化シートを活用している。具体的で利用者の思いにそった支援内容となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなどを個別記録に入力し、変化のあった事は特記事項や申し送り事項に記録し、情報を共有している。月に1度の会議や必要であれば随時、会議を開き、相談、検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題や新たなニーズがあれば家族と相談しながら、なるべく本人の要望に柔軟に応えられる様に随時検討し、取り組んでいる。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活歴や好みを把握し、地域の行事に参加したり、誕生日を生き生きと過ごしてもらえるように個別の企画に取り組んでいる。また、子供から高齢者まで様々なボランティア、近隣の方との交流も図っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を基本とし、協力医療機関の訪問看護などで普段の状態を把握してもらいながら、24時間体制で状況に応じて、医療が受けられるように支援している。また変化があれば随時、家族に報告、相談を行っている。	これまでのかかりつけ医の受診継続を原則とし、家族の都合により職員が支援したり、同行する場合もある。希望に応じ、協力往診医の利用も可能である。日々の体調管理を重視し、利用者の状態把握に努めている。他科受診にも協力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状況や体調の変化など介護職員が捉えた事をまとめて、その内容をもとに訪問看護やかかりつけ医に伝え、指示やアドバイスをしてもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は1日1回は必ず職員が面会し、安心してもらえるように働きかけている。また、その時の状況や看護師さんからの情報を記録し、共有している。	やむをえず入院した場合は、利用者が安心して過ごせるよう職員は毎日訪問する。家族とは早期退院に向け、早めに医療関係者と話し合い、退院後も含め、対応を協議している。早期での退院のための受け入れ体制を可能な限り整え、安心できる環境を用意するようにしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・本人の意向を十分に聞き入れ、ケア方針に反映させている。その思いを汲み取りながら、終末期の利用者さんの情報は家族や医療機関へこまめに伝え、情報を共有しながらチームで取り組んでいる。	利用者、家族の思いを最優先とし、事業所としてできる体制づくりを行っている。家族の協力を得ながら、家族も一緒に過ごせ、安心できる環境になるよう、職員はチームとして取り組んでいる。職員は外部研修でも学び、日々研鑽に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアル化しそれを提示し、統一できているが、それを実践で使える訓練は定期的に行っていない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を実施し、職員とともに利用者さんにも、避難方法など身につけてもらっている。また地元消防団や消防署にも訓練の際に協力してもらっている。	定期の消防訓練を年2回実施している。消防署立ち会いによる訓練では、防災クイズを盛り込み、楽しみながらの訓練ができ、より関心が高まった。検証により、ベルの音が聞こえにくい等の検討課題もあがり、次回につなげていく方針である。地元との協力関係をさらに強化していきたいと考えている。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や職員間の情報共有などで尊厳を傷つけない関わり方、接し方を話し合い、場合によっては個別で伝えている。	高齢者を敬う姿勢を常に忘れないようにしている。敬語の使い方や個々の利用者への声かけについても、会議や申し送り時に取り上げ話しをしている。家族からみて、不適切な言葉かけになっていないか、注意を喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話や様子観察の中から、その日の体調に応じて、希望や訴えを傾聴し、場面ごとに自己決定してもらえるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を決めず、その日の体調やまわりのメンバーを配慮し、活動してもらえる場所も臨機応変に希望に沿って過ごしてもらえるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望の美容院などに行ってもらい、馴染みの整容品を利用し、本人の好みのおしゃれが出来るように支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの献立を考慮したり、畑で収穫した野菜などを使用し、食事作りから片づけまで話をして楽しみながら、一緒にしている。また、買い物も一緒に行き、材料選びから活躍してもらっている。	何が食べたいか、何がおいしいか、普段の会話を通じて、好みや意向を聞き取っている。旬の食材や手作り野菜を活かした調理やメニューを工夫し、これまで培ってきたやり方やこだわりを取り入れ、役割を活かすようにしている。みんなで食べる食事を大事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量が不足しがちな方には水微分、食事チェック表を作って把握しながら、季節の食材、栄養バランス、量、塩分にも考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛けし自分で出来る方には各々してもらい、できない方には援助させてもらっている。義歯の管理が出来ない方には夜間、預からせてもらい洗浄剤につけている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日頃の排泄のパターンを把握しながら、排泄チェック表で確認し、本人の様子を見ながら、なるべくオムツに頼らず、トイレで排泄できるように援助している。本人の尊厳と不快度を考慮し、相談・検討している。	個々の排泄習慣をベースに、その日の体調や気分を見ながら、その人に応じた声かけ、誘導を行っている。精神面で落ち着きがない場合などは、タイミングを見計らって、プライドを損ねない声かけに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人により、朝食時にバナナや牛乳、ヨーグルトなどを食べてもらい、便秘にならないように工夫している。排泄チェック表で状況を確認し、出ていなければ便秘薬の相談やお腹のマッサージ、運動などでケアしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間などなるべく一人ひとりの意向を聞いて、本人のペースでコミュニケーションを取りながら、くつろいだ気分に入ってもらうように心掛けている。	概ね、夕方から夜にかけて入浴してもらっている。2日に1回の目安はあるが、その日の希望や気分により柔軟に声かけしている。入浴を楽しみにしている人もおり、時間等も希望にそって対応している。職員とのおしゃべりをゆっくり、楽しんでいる人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の本人の体調や日中の活動量など様子を見ながら、環境を整え、休息や安眠の時間が持てるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を常に見れるようにしており、薬が変更になったり、増減の指示があった時はその薬の特性を把握し、利用者さんの状態に変化はないか観察し、適宜主治医へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんの好きなこと得意な事を活かして、役割や楽しみが持てるように支援している。また日々の生活の中でレクリエーションや、買い物、新聞を取りに行くなどをしてもらいながら気分転換も図ってもらえるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、地域行事の参加に出来るだけ参加し、職員も利用者さんの馴染みの場所を把握し、好みの場所への外出も可能な範囲で実施している。	近隣のお地蔵さんに行ったり、散歩や買物等、気軽な外出は多い。最近では、近所の人と立ち話しをすることもあり、馴染みの関係が広がってきている。今年度は、全員参加の一泊旅行を楽しみ、新たな目標ともなった。家族との外出や外食もあり、協力を得られている。	



自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて家族と相談しながら、自分で買い物や金銭の管理をしてもらっている。また管理をされない方へも、立て替えで好きな物を購入してもらい、社会生活の維持に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという要望があれば、事業所の電話を利用してもらい、対応している。また携帯電話を持って随時連絡を取られる方や手紙や年賀状で家族でやり取りをされている方も「あり、関係が途切れに様に支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁面を作って飾ったり、庭の花を見てもらうなどで季節を感じてもらう。天気が良い日は窓際で過ごしてもらったり、景色を見てもらうなどで気候を感じてもらっている。	家庭的なリビング、茶の間の風景で、食卓テーブルやソファコーナー等、好きな所で過ごしている。リビングからは、日本庭園風の広い庭が見渡せ、開放感がある。ところどころに、利用者合作の作品が飾られており、利用者自身も楽しみにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は自由席とし、テーブルを分けて配置することにより、思い思いの場所で気のあった仲間と過ごせるように配慮している。また、居心地よい居場所が確保出来るように、工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用していた馴染みの家具や物に囲まれ、個性ある居心地良い空間にしてもらえるように支援している。位牌を置くなど配置も家族や本人と相談しながらさせてもらっている。	趣味の物や、季節毎の洋服、帽子等、ところせましと置かれている。使いがってのいい家具やお気に入りの椅子やテーブルも置かれ、居心地良く過ごしている。和風、洋風とお好みのレイアウトとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印や表札などで自分の居室やトイレを認識してもらえるように努めている。日頃から「出来ること」「分かること」を把握し、さりげなく見守りながら、使いにくさや危険をその都度、対応を話し合っている。		